

ふら がみ ゆ き え
淵上 由紀江 さん (52歳)
営農地: うきは市浮羽町
主な農産物: イチゴ(アスカルビー、
紅ほっぺ)



息子と取組むイチゴ栽培

● 就農のきっかけ

考えもしなかった就農

非農家出身の淵上さんは、地元久留米の高校を卒業後、久留米市内の企業に就職し事務の仕事をしていました。農機具メーカーに勤められている夫と出会い結婚を機に退職、夫の実家がうきは市で農業をしており、田植えなどの手伝いをしていましたが、自分が農業をすることになるとは、当時は考えもしなかったそうです。子供が成長するとパートの仕事に就かれました。

大きな転機となったのは、今から約8年前に地域でイチゴのハウス建設の事業が行われ、途中で1名欠けるという事態が起きました。そこで白羽の矢が立ったのが、淵上さんでした。本格的な農作業経験がなく、また未知の品目であるイチゴで就農することに大きな不安を持たれたそうですが、当時、農業高校に通っていた息子さんが農業を志望していたことから「将来、親子での経営がチラっと頭によぎった」そう而就農を決心されました。

● 私の今～就農後の道のり～

学びながらのイチゴ栽培

20aのハウスと作業場の新設、高設栽培システム、冷蔵庫の導入など多額の初期投資が必要でした。イチゴの栽培管理など何一つ知らないまま、淵上さんはイチゴ農家としてスタートしました。

品種は『アスカルビー』とし、栽培管理は『アスカルビー』を栽培している農家や普及指導センターに教えてもらいました。栽培しながらイチゴの栽培を一つ一つ習得していき、「初年度から自分の想像よりよくできた」そうです。販路は、直売を考えていたのですが、丁度、関西に複数の店舗を持つ京都府のコーヒー店がスイーツ用イチゴの仕入れ先を探しているという話が舞い込んだため、取引を開始し、現在でも最大の取引先になっています。

就農4年目からは経営的にも安定し、5年目には長男が農業大学校を卒業して就農したことから、ハウスを15a増設しました。

● これからの夢、目標

息子と高品質なイチゴを目指す

今年で息子さんも就農5年目となり、「これからは、息子に任せていきたい」と淵上さんは考えています。観光農園やイチゴの加工・販売など息子さんはたくさんの夢を持っているそうで、今年からは観光農園を始めるため、新しい品種の導入など準備を進めています。淵上さんの目から見ると、「まだまだ基本管理がなっていない」らしく、安心して任せられるのはしばらく先のようです。

より高品質なイチゴを長男とともに目指し、息子さんの大きな夢が叶えられるよう、支えていきたいと淵上さんは考えています。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、夫、子3人
- 営農年数 / 約8年
- 耕作(経営)面積 / ハウス0.35ha
- 販路 / 直売、直売所

就農を考えている女性へ ♥

農業は多くの作業、人手が必要な大変な仕事です。しかし、基本に忠実であれば結果ができるやりがいのある仕事だと思います。イチゴを買ってくれる消費者の「おいしい」の喜びの声と笑顔で元気を頂くと、もっとおいしいイチゴを提供しようと勇気が湧いてきます。

非農家出身で、思いもよらなかったイチゴ農家への転身でしたが、家族、昔からの友人、一緒に働くパートの方々など多くの人たちとのつながりが大事だと思います。